

令和4年度事業報告

1 研究テーマ

酒造用原料米の酒造適性に関する研究

2 研究の現況・進捗状況

(1) 概要

酒米研究会は、原料米の酒造適性を総合的に研究すること及び当該酒造期に使用される原料米の性質をできるだけ早期に把握し、それぞれの原料米に適した酒造管理を行えるようにすることを目的としている。

主な活動は、酒米研究会総会及び酒米懇談会の開催並びに原料米の全国統一分析である。また、本会は酒類製造技術者のみならず、育種・栽培関係者、米に関する研究者等、広く酒米に関心を持つ者も会員として受け入れている。現在の会員構成は、263名の個人と8機関から成っている。

酒米研究会については新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し、令和4年8月26日(金)にオンラインで実施し、各支部間での分析結果の活用方法及び分析法の課題などについて活発な意見交換を行った。また、酒米懇談会については、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮しつつ、人的交流を促進するために、令和4年9月5日(月)に、酒類総合研究所においてハイブリッド開催した。(2)ハに掲げるように、5名の講師先生に様々な観点から話題提供をお願いし、活発な意見交換がなされ参加者にとって大きな収穫になった。なお、総会は書面表決の方式を採用した。

令和4年産原料米の全国統一分析については、酒類総合研究所が実施する早期(0次)酒造適性分析のための試料として、酒類総合研究所に試料提供した。酒類総合研究所で実施された早期(0次)酒造適性分析の結果について、詳細な解析を行い本年度の原料米の酒造適性情報として12月2日付で各支部に報告した。また、12月上旬までに各支部において分析が終了した結果について取りまとめ、第1次の速報として令和4年12月12日付で、3月末日までに終了した結果を第2次の結果として令和5年4月14日付で関係者に報告した。

(2) 研究会開催等

イ 令和4年度酒米研究会総会

① 書面表決 令和4年7月26日～8月19日

② 議案:令和3年度事業報告、令和3年度収支報告及び令和4年度予算案、令和4年度産米の分析計画、酒造用原料米全国統一分析法の改訂等

ロ 第48回酒米研究会

① 開催月日 令和4年8月26日(金)

② 方法:オンライン(Zoom)

③ 議案:令和3年度産米分析結果、酒造用原料米全国統一分析結果の活用と分析法の課題、その他

④ 参加者 25名

ハ 第45回酒米懇談会

- ① 開催月日 令和4年9月5日(月)
- ② 方法:ハイブリッド(Zoom)
- ③ 開催場所 広島県東広島市鏡山3-7-1 (独)酒類総合研究所 多目的ホール
- ④ 講演内容:
 - 1)「広島県における原料米研究の取り組みについて(新規酒造好適米開発, 扁平精米技術)」
広島県立総合技術研究所食品工業技術センター 山崎梨沙 先生
 - 2)「スマートフォンを利用した山田錦の穂肥診断及び収穫適期診断技術」
兵庫県立農林水産技術総合センター 松川慎平 先生
 - 3)「宮城県酒米新品種『吟のいろは』の育種開発について」
宮城県古川農業試験場 佐々木都彦 先生
 - 4)「酒造原料米の消化性 Brix の予測に関する研究」
埼玉県産業技術総合センター 齋藤健太 先生
 - 5)「山田錦の収量及び品質とNSC 含量の関係」
山口大学農学部 荒木英樹 先生
- ⑤ 参加者 71 名

(3) 刊行物の発行等

- ・第45回酒米懇談会要旨集 (令和4年9月)
- ・令和4年度早期酒造用原料米全国統一分析解析結果 (0次) (令和4年 12 月 2 日)
- ・令和4年度酒造用原料米全国統一分析結果 (1次) (令和4年 12 月 12 日)
- ・令和4年度酒造用原料米全国統一分析結果 (2次) (令和5年4月 14 日)

(4) 研究連絡活動

(4-1)原料米全国統一分析

イ 研究会支部の状況

原料米全国統一分析に参加しているグループ数は、令和4年 11 月末現在で、試料の採取を依頼している機関を含めて 30 機関である。

ロ 令和4年産米の分析

①早期分析(0次分析)のデータ解析

令和4年産米の早期酒造適性分析のための試料を酒類総合研究所に提供した(59 点)。酒類総合研究所にて実施された酒造適性分析のデータ及び各支部からの造り初期の酒造概況、気象・収穫に関するデータを詳細に解析し、令和3年産米の性質の早期予測(0次)として令和4年 12 月 2 日付で関係者及び各支部に周知した。

②1次分析

各支部において 12 月上旬までに分析の終了した原料米について結果をまとめ、0次分析結果と併せ令和4年度産原料米の性質を予報し、令和4年 12 月 12 日付で日本酒造組合中央会会長及び各支部等に報告した。

③2次分析

各支部において3月末日までに分析の終了した原料米について結果をまとめ、0次・1次結果と併せ合計 84 品種 312 点の結果を2次分析結果として、令和5年4月 14 日付で日本酒造

組合中央会会長及び分析を担当した各支部等に報告した。

(4-2) ホームページ

酒米研究会ホームページ(<http://www.sakamai.jp/>)において、酒米分析結果のデータ及び結果概要を更新し、会員間で有効に活用された。